※令和４年度以降入学生用

学校番号	1207

令和５年度　数学科

教科	数学	科目	（学）自己表現（数学編Ａ）	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	なし（予定）						
副教材等	自校作成プリント（予定）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１年次「基礎からの数学」の復習をはじめ、並行履修中の「数学Ｉ」及び「数学Ａ（理系セット選択者向け）」の学習内容を演習形式で行います。
また、必要に応じて、問題の解答方法の説明を討論する機会も設ける予定です。

２　学習の到達目標

・数学における概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的な解釈、表現・処理する技能を身につける。
・数学を活用して事象を論理的に考察する力や数学的な表現により事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
・積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断する態度等を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な思考力や判断力を身に付けている。	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	数と式（数学Ⅰ）	1.数と式の計算 ・計算の基本 ・単項式と多項式 ・多項式の加法、減法 ・多項式の乗法 ・展開の公式 ・因数分解 ・展開、因数分解の工夫 ・根号を含む式の計算 ・実数 2.１次不等式 ・１次方程式 ・不等式 ・不等式の解	a:数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算ができるか。 b:すでに学習した計算の方法と関連付け、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形できるか。 c:　学習した内容を様々な場面で活用しようとしているか。	定期考査 小テスト	定期考査	課題 プリント 観察
	場合の数（数学Ａ）	3.順列･組合せ ･集合 ･集合の要素の個数 ･和の法則･積の法則 ･順列 ･組合せ	a:集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則など数え上げの原則について理解しているか。 b:事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察できているか。 c:　学習した内容を様々な場面で活用しようとしているか。	定期考査 小テスト	定期考査	課題 プリント 観察
	２次関数（数学Ⅰ）	4.2 次関数のグラフ ･関数 ･1 次関数のグラフ ･2 次関数のグラフ	a:2 次関数のグラフの特徴について理解できているか。 b:2 次関数の式とグラフの関係について、グラフをかくなど多面的に考察しているか。 c:　学習した内容を様々な場面で活用しようとしているか。	定期考査 小テスト	定期考査	課題 プリント 観察

※令和４年度以降入学生用

後期	2次関数の値の変化（数学Ⅰ）	5.2 次関数の値の変化 ・2 次関数の最大値、最小値 ・グラフと 2 次方程式 ・グラフと 2 次不等式	a:2 次関数の最大値、最小値を求めたり、2 次関数のグラフと 2 次方程式や 2 次不等式の解との関係を理解しているか。 b:2 つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉えられるか。 c: 学習した内容を様々な場面で活用しようとしているか。	定期考査 小テスト	定期考査	課題 プリント 観察
	確率（数学Ａ）	6.確率 ・事象と確率 ・確率の計算 ・独立な試行と確率 ・条件付き確率 ・期待値	a:確率の意味や基本的な法則について理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができるか。 b:確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察できているか。 c: 学習した内容を様々な場面で活用しようとしているか。	定期考査 小テスト	定期考査	課題 プリント 観察
	図形と計量（数学Ⅰ）	7.三角比 ・直角三角形 ・三角比 ・三角比の利用 ・三角比の相互関係 ・鈍角の三角比	a:三角比の意味と相互関係について理解できているか。 b:図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現できるか。 c: 学習した内容を様々な場面で活用しようとしているか。	定期考査 小テスト	定期考査	課題 プリント 観察
		8.三角形への応用 ・正弦定理 ・余弦定理 ・三角形の面積	a:正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて辺の長さや角の大きさを求めることができるか。 b: 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象などを数学的に捉えることができているか。 c: 学習した内容を様々な場面で活用しようとしているか。	定期考査 小テスト	定期考査	課題 プリント 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度